

イヌマキ造林地の薬剤散布について

令和7年4月3日(木)

令和7年4月3日(木)、国頭村字辺野喜の県営林内のイヌマキ造林地において、害虫(キオビエダシヤク)防除のための薬剤散布を実施した。

イヌマキは耐蟻性が高く木肌が美しいことから本県において古くから利用されている建築材の一つであり、これまで県内各地で造林されている。しかしながら、イヌマキの葉を好んで摂食するキオビエダシヤクの虫害により、枯損、または、衰退している箇所がある。

本造林地では、キオビエダシヤクの発生状況を確認した上で、年に複数回の薬剤散布を実施しており、今年度は新芽をつけている時期に合わせ、4月3日に第1回目の散布を実施した。

前回散布時(R7/3/18)から2週間以上経過していたが、キオビエダシヤクは多数確認されたため、新芽に薬剤を付着できるこのタイミングでの散布は適期だったと考えられる。

今後も定期的に薬剤散布を続け、造林地の保護に努めていく。



写真：薬剤散布の様子